

令和4年7月27日

小金井市長 西岡 真一郎 殿

小金井市行財政改革市民会議
会長 大谷 基道

行財政改革2025（案）策定についての答申に当たって

小金井市における行財政運営の指針となる、行財政改革プラン2020の終了を受け、私たち小金井市行財政改革市民会議では、小金井市行財政改革2025を策定するため、諮問を受けてから2年間、コロナ禍による様々な制約を受けながらも、オンライン会議の導入など臨機応変な対応を重ね、9回の全体会議と5回の部会を開催して、市民の視点からあるいは専門的見地から活発な議論・検討を重ねてまいりました。

100年に一度ともいえるパンデミックの中、本市の行財政改革については、令和2年度末で行財政改革プラン2020が終了したものの、新型コロナウイルス感染症対策を優先し、新たな行財政改革プランの策定を先送りしたため、令和3年度からは計画上の空白期間が生じている状況でした。この空白期間を単なる空白期間とせず、次の計画にコロナ禍を踏まえた新たな考え方を反映させるための期間として活用し、ポスト・コロナの時代に即した行財政改革の方向性を再考することが求められています。

市長からの諮問では、新型コロナウイルス感染症の影響等により社会経済情勢が一層不透明となったことから、これまで以上に踏み込んだ改革が求められていました。これを受け、市民会議では、これまでの一般的な行財政改革の在り方に縛られることなく、真に取り組むべき行財政改革の在り方について議論を重ねてきました。

市長をはじめとする市行政当局に対しては、市民会議による本答申を最大限に尊重し、新しいステージの行財政改革に全庁を挙げて取り組むことを切望します。

また、諮問の範囲からやや逸脱するものの、市民の代表である市議会に対しても、新たな改革に取り組む市役所職員の意欲を評価して後押しすると共に、市議会自体の改革にも積極的に取り組み、市行政当局と一体となって「聖域無き行財政改革」を推進されることを強く要請します。

最後に、行財政改革2025（案）を策定するに当たり本会議を傍聴された方やパブリックコメントを通して意見を寄せられた方はもちろんのこと、本会議に関心をお寄せいただいた全てみなさまに御礼申し上げます。

以上